

緑肥導入による土壌病害の抑制

たまねぎの安定生産 ～札幌市～

活動年次：令和3～5年

石狩農業改良普及センター石狩北部支所

1 課題設定の背景 *****

対象：札幌市 たまねぎ生産者 12戸

○連作による「乾腐病」の増加と、たまねぎ品種「札幌黄」の収量低下



○乾腐病対策と「札幌黄」の収量向上

「札幌黄」の特徴

メリット：火を通すと甘く、食味がよい

デメリット：土壌病害（乾腐病）に弱く、収量性が劣る

乾腐病の被害



罹病株
腐敗した株

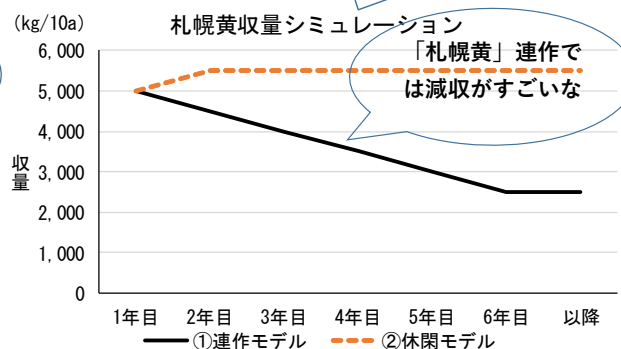
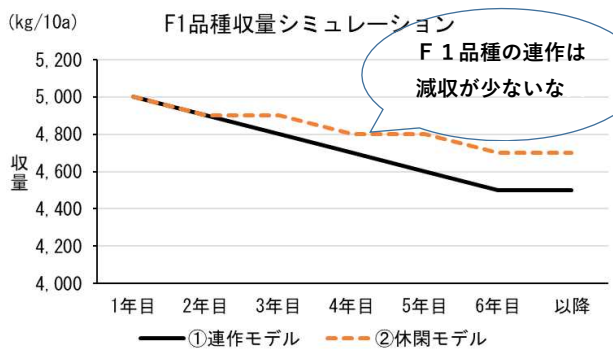
2 活動の内容 *****

○休閑緑肥導入による「乾腐病」抑制を提案

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
1年目					たまねぎ栽培								越冬	備者 緑肥①（3種混播） エン麦 1.0kg/10a
R3年					緑肥栽培①									オーチャードグラス 3.5kg/10a アカクローバー 0.2kg/10a
2年目														緑肥② エン麦 15kg/10a
R4年					緑肥栽培①		緑肥②							※すき込みが浅いと緑肥雑草化の恐れ
3年目					たまねぎ栽培									※乾腐病発生率調査実施
R5年					たまねぎ栽培									

3 活動の成果 * * * * *

○減収しない休閑緑肥モデルを提案し、メリットが理解された
 [設定条件] F 1 品種 : 4.5ha

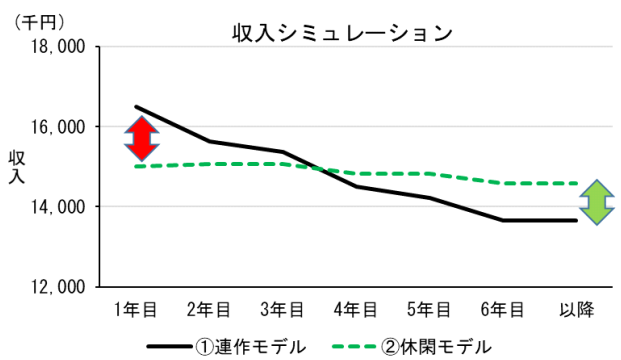


「休閑緑肥」では収量が減らないぞ！

[休閑緑肥モデル]

[F 1 品種連作モデル]

- ・ 毎年0.5ha休閑緑肥栽培
- ・ 2年目以降は品種「札幌黄」を栽培



[収入シミュレーション]

- ・ 1年目は150万円減収 (0.5ha休閑緑肥のため)
- ・ 6年目以降は毎年90万円増収

○ 2戸の農家で収穫後に休閑緑肥を導入した
 ○ 越冬前までの3種 (混合) の生育状況を農家と確認した



写真 10月の生育状況 (緑肥3種混播)

4 今後の対応 * * * * *

○令和4年5月に緑肥をすき込み、6月にエン麦 (野生種) を播種する